



第18航空団広報局発行

太平洋空軍司令官、嘉手納基地を訪問

第18航空団広報局

PACAF commander visits Kadena Airmen, tours facilities



(写真全て、米空軍：ジャービー・ヴァレス兵長撮影)

PACAF commander visits Kadena Airmen, tours facilities

1月6日から3日間、太平洋空軍司令官ノース大将が嘉手納基地を訪問、基地内の施設を訪れ空軍兵の日頃の労をねぎらいました。訪問中、空軍兵2名にブロンズスター勲章を授与しました。

ノース大将は、嘉手納基地が「太平洋の要石」として、50年以上続く日米相互防衛における同盟関係の維持や、アジア太平洋地域の平和と安定のために重要な役割を果たしており、その基盤が維持できているのは、有能な空軍兵や軍属、姉妹軍、また地元沖縄の従業員の協力によるものであると述べました。また、日本側のホスピタリティに感謝していると述べ、空軍兵もここに駐留している機会を活かし、積極的に地元の人々と交流し彼らの文化を学んでほしいと挨拶で述べました。



CONTENTS

太平洋空軍司令官、嘉手納基地を訪問

第31・33救難中隊、航空自衛隊とコープ・エンジェル(合同訓練)を実施

第20回おきなわマラソン

日米合同消火訓練

「老人ホームいえしま」へのクリスマス訪問



第31・33救難中隊、航空自衛隊とコープ・エンジェル(合同訓練)を実施



2011年12月5日から8日の日程で、嘉手納基地の第31及び第33救難中隊は、航空自衛隊と毎年行われている合同救難及び捜索訓練「コープ・エンジェル」を実施した。

訓練では、東日本大震災のような地震や津波を含む災害を想定し行われた。「この訓練の目的は、日米双方の救難隊による相互運用性を高めるために行っている。トモダチ作戦の時のように、万が一、将来日米で救難活動が必要となつた場合に備え、このような訓練はとても意義があると思う。」と話すのはマシュー・マクギネス少佐。マクギネス少佐は第31救難中隊で運用部長を務めており、コープ・エンジェルに参加するのは今回で5回目となる。

この訓練では、多数の死傷者が出た場合の統制管理手順や負傷者の搬送計画など空軍の手法を航空自衛隊側に示し、航空自衛隊も独自の新たな技術や手順を用いて空軍と共に訓練を実施した。言葉の壁や、日米の手法の違いを感じながらも「航空自衛隊の救難捜索の技術は空軍と同等で、通訳を介して、これからもお互いに作用し合いながら技術を磨くことができると思う。他国の救難隊と訓練を行うことによって、常に、新たな技術や装備品を知ることができる。米国空軍にとってもさらに運用能力を高めることができると感じたし、これからの自信にも繋がると思う」とマクギネス少佐は訓練を振り返った。

第18航空団広報局

(写真全て、米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)



Cope Angel 12

第20回おきなわマラソン

第18航空団広報局



来る2月19日（日）に開催される第20回あきなわマラソンに向けて、今回も嘉手納基地では受け入れ準備を進めています。同イベントを支援する基地内のプロジェクトチームは昨年12月に立ち上げられ、第18広報局渉外部、第18憲兵中隊、第18部隊支援中隊、第18医療群、第18施設群から構成されています。これらの部隊より担当者が集まり、これまで数回会合が開かれ、準備体制の確認作業が話し合われました。またあきなわマラソン実行委員会会長である沖縄市長から協力要請を受け取った第18任務支援群司令官は、嘉手納基地における交通規制、ボランティア体制、医療体制、基地内住民へ交通規制の周知などに関しての説明を各部隊の担当者と共に、第18航空団指揮官に行いました。

あきなわマラソン実行委員会によると、今回は最多の12808人がフルマラソンに申し込み、10000～11000人が嘉手納基地内のコースを通過するものと予想されています。米軍関係者の走者の申し込みは、嘉手納基地内のライズナーハウスで受付され、245人がエントリーしています。



おきなわマラソン
2012年 2月19日（日）





1月13日、嘉手納基地弾薬庫内にあるシルバー・フラッグ訓練場で、第18施設中隊消防本部、ニライ消防本部、沖縄市消防本部による合同消火訓練が行われました。沖縄県内には消火訓練施設がないため、昨年度沖縄県消防学校を卒業した新人隊員の訓練をして実施され、日米あわせて36名の消防隊員が参加しました。空軍の消防隊は、これまで地元消防隊と、消火訓練20回、危険物資除染訓練15回、航空機事故対応訓練5回行っており、毎年地元との合同訓練を2回行っています。



JOINT FIRE TRAINING AT KADENA AIR BASE
JOINT FIRE TRAINING AT KADENA AIR BASE
JOINT FIRE TRAINING AT KADENA AIR BASE



「老人ホームいえしま」へのクリスマス訪問



MERRY
CHRISTMAS!!



第18航空団広報局



訪問では、子供達がピアノ演奏を披露したり、クリスマスキャロルを歌ったりと、和やかなクリスマスの雰囲気に包まれました。毎回訪問の準備をすすめる中心的な人物がいます。同中隊職員のバービネさんという方で、彼が初めてこのホームを訪問したのが12年前のことだそうです。その後本国へ異動したもの、転勤で嘉手納基地に戻ったのをきっかけに、再び「いえしま」訪問を企画し始めました。「老人ホームいえしま」の中真京子園長は「バービネさんは、沖縄に戻られてから何度も私達への訪問を企画してくれています。隊員のご家族も一緒に年に数回、交流や清掃活動、クリスマスなどに来て頂いています。お年寄りだけでなく、職員も訪問される度に感動し、感謝の気持ちでいっぱいです。ハロウィーンのときは、珍しいコスチュームを着て訪問され、米国のユニークな文化を楽しみました」と感想を話してくれました。

